

様式第2号（第8条・第9条関係）

令和 2年 5月11日

白老町議会
議長 松田 謙吾 様

白老町議会議員 氏家 裕治 印

派遣結果報告書

日時（期間）	自 令和 2年 2月19日（水） 至 令和 2年 2月21日（金） （2泊3日）
目的地	静岡県御殿場市 ①御殿場市教育委員会 ②時の栖 群馬県川場村 ①道の駅川場田園プラザ
調査事項	・スポーツ振興とスポーツツーリズムによるまちづくり ・交流施設による地域活性化
視察の成果 （具体的に）	別紙参照

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

白老町は現在、少子高齢化・人口減少対策・公共施設の老朽化対策などの地域課題に直面している。加えて、近年は第1次産業から第3次産業までの経済活動の低迷により、まちの活気と地域の賑わいが薄れつつあるように思われる。

こうした課題の要因として、一つに、通過型観光地のイメージを打開できなかったことと、地域資源を生かした認知力向上への取組をなし得なかった現状があるのではないだろうか。

また、子供から高齢者までが関われる文化・芸術・スポーツによる賑わい創出にも、しっかりとした方向性を示しながら、まちづくりを進めるべきだと考えることから、一市・一村の先進的取組を学ぶものである。

1. 神奈川県御殿場市

スポーツ振興とスポーツツーリズムによるまちづくり

(1) スポーツツーリズム推進体制

平成23～25年度に、スポーツツーリズム育成支援事業として、当時の文化スポーツ課で取組をスタートし、従前から実施していたスポーツ合宿誘致のほか、御殿場市固有の自然環境やスポーツ環境を生かした取組を進めた。

その後、スポーツツーリズム推進事業として、同市では商工観光課が事業を引継ぎ、平成29年度には、商工・観光・農林分野を担う、産業スポーツ部を新設した。さらに、スポーツツーリズムに力を入れて取り組むため、スポーツ交流課を新設した。

現在は、東京2020オリンピックの自転車競技ロードレースが市域をコースとする決定を受け、東京2020大会に向けた取組を行う、2020オリンピック・パラリンピック課が設置され、同課内でスポーツツーリズム推進の取組も担い、市民スポーツの振興やスポーツ施設等の担当として、市民スポーツ課が設置され、両輪で市のスポーツ行政を担っている。

(2) スポーツ施設の整備状況

御殿場市は、市域の3分の1が自衛隊演習場であり、防衛補助を財源とした地域スポーツ施設の整備が進んでいる。

また、民間宿泊施設である御殿場高原時之栖は、Jリーグのサッカー合宿など、トップアスリートの受入れ実績が豊富で、体育館、プール、サッカーグラウンドなどを施設内に持っており、市のスポーツ合宿の中核施設となっている。

2. 群馬県川場村

交流施設による地域活性化

(1) 道の駅川場田園プラザ

道の駅は今や全国に1,145ヶ所(2018年4月時点)を数える。道の駅・川場田園プラザは、継続的に地域貢献している道の駅として、2014年に国土交通省選定の、全国モデル「道の駅」(6駅)に認定された。「特別なものは何もない」という村の施設だが、以来、地方創生の成功モデルとして、国内をはじめ、海外からも視察団が訪れている。

「関東・甲信越好きな道の駅」において、平成16年度から平成20年度まで5年間連続第1位となり、平成27年度には180万人が訪れる道の駅の中ではトップクラスに位置づけられている。

(2) 事業の目的

川場村の事業の基本路線である「農業+観光」の集大成の事業として位置づけ、地場産品の振興及び新規開発を担うとともに、川場村の商業・情報・ふれあいの核であるタウンサイトの形成の場として機能させるものである。

(3) 設置のねらい

川場村では21世紀を展望しながら、コミュニティ活動や世田谷区(世田谷区健康村事業)との交流活動の一層の活発化、農業を中心とした地場産業おこし、田園や自然環境に相応した地域住宅づくり、村の核づくりなどに重点を置きながら成熟した村づくりを進めている。

田園プラザ事業は、川場村のこうした一連の重点事業では中核的なものであり、次のような機能を持つ川場村の商業、情報、ふれあいの核であるタウンサイト(中心街区)の形成を目指している。

- ① 若者を中心とした就業機会を増やし、定住UIターンなどを推進する。
- ② 地場産品の開発やPRを進め、その流通を促進する。
- ③ 村民相互、ならびに村民と村来者の交流・交歓や情報交換の場とする。
- ④ 村来者の飲食や買回り品のニーズに応えるとともに、村内消費の拡大を図る。
- ⑤ シャトルバスの起終点など、村内の交通ターミナルとして機能する。

また、川場村にとってこの事業は、長い歳月をかけて進めてきた活力ある村づくり事業を締めくくるものと位置づけ、行政と住民が一丸となって取り組むものである。

3. 視察の成果

スポーツ振興とスポーツツーリズムによるまちづくりでは、民間との連携による賑わいの創出、産業の活性化が見て取れる。そのための住民理解と行政の役割について学ぶことができた。まちが変わろうとするとき、住民は敏感に反応するものである。行政と民間、そして、住民による共働の施策が大事であり、地元のキーマンと共に考え前に進むことが求められるということが今でも頭に残る。行政の役割は、民間が活動しやすい環境の整備に努めることであるとの御殿場市長の言葉が印象的であった。

道の駅川場田園プラザでは、新たな特産品の開発と販売促進が実現したことで、農地の遊休化の防止が図られている。現在、農産物提供者は350名を超え、川場村の農家の半数となり、第一線を退いた高齢者や婦人で趣味と実益を兼ねた生きがいともなっている。

また、一流のおもてなしを体感するため、プラザ内で働く全スタッフによるディズニーランド視察を行い（朝から夜までディズニーランドのスタッフの対応を観察）、意識改革に取り組んだことによる成果が、現在の集客人数につながっているのかもしれない。

白老町もウポポイの開設を間近に控え、来町する観光客の方々が「白老にまた来たい」と思う接客のあり方をいま一度考えるべきである。